

「マイホームの次に高い買い物」などと言われる生命保険ですが、何にどの程度保障が必要かはライフイベントなどで変わります。上手に保険を利用するには、契約内容の定期的な見直しが大切です。

加入目的を明確にする

- ひとくちに生命保険といっても、加入目的で大きく次のように分けられます。これらがすべての人にとって必要なわけではありません。加入目的を明確にすれば、必要な保障の優先順位を決めやすくなります。
- 死亡保障** … 万一のときに遺族の生活を守るため
- 医療保障** … 病気やケガに備えるため
- 老後保障** … 積立金を年金として受け取るため

ライフイベント別 見直しポイント

●家族が増えた 死亡保障を増額

結婚して妻が専業主婦になるような場合はある程度まとまった額の死亡保障が必要になりますが、共働きなら夫婦共に死亡保障はお葬式代程度のケースも珍しくありません。子どもが生まれると新たな扶養義務が発生するので、必要保障額が大きくなります。



●子どもが独立した 保険を見直すチャンス

子どもが経済的に独立すれば、教育費負担や扶養義務がなくなるので、必要保障額は小さくなります。そろそろ老後のことを考えて医療保険や介護保険を充実させるなど、保険を見直すいい機会です。



●マイホームを買った 死亡保障を減額

住宅ローンを組んで団体信用生命保険（団信）に加入すると、万一の場合は団信がローンの残りを肩代わりします。遺族はローンの心配がなくなるので、死亡保障のための保険を減額できます。



●定年退職した 保険からの卒業も

高齢になると新たな保険に加入できても保険料が高額になります。まずは今後の保険料負担総額を試算してみましょう。あえて保険には加入せず、できるだけ働いて貯蓄で万一に備えるという選択肢もあります。



数字で見る彩企業年金基金

(2019年3月31日現在)

安定した事業基盤

総資産額：85.0億円
加入者数：7,290人(71社)
掛金・給付差額：+3.3億円(年間)
(収入) (支出)

老後資金の一部を補完する年金給付

(モデル：40年加入 標準給付月額34万円)
年金給付額：約2.4万円(月額)
年金支給総額：約433万円(15年間分)
一時金額：約361万円
(年金か一時金のどちらかを選択)

ハイブリッドな制度設計

DB上乘せ：12社(4,892人)
DC上乘せ：35社(659人)
DCマッチング活用：33社(498人)

双方向のコミュニケーション

いどろりREPORT：年2回発行
寄せられたご意見・ご感想：191件(累計)
改善につなげた事例：14件